

山行報告書

(2014.03.26改訂)

日時	2014年6月8日(日)		
山名	平治山 "山肌ピンク色の平治岳"		
CL	藤原	参加者	坂本・徳永・大久保・河辺・林・林(妻)・林(次男嫁)・林あかり 7 歳 (総勢9名)
HP記載の有無	有		
(コメント)	<p>○1日目(6/7)</p> <p>小国倶楽部 会食は各自、自慢の手作り料理持参と割り勘用の千円の鶏タタキ会食。</p> <p>8時過ぎ近所の叙父さんよりホテルが飛んでると呼掛けがあり、皆で駆けつけ乱舞するホテルに皆さん喜ぶ。新潟出身の林嫁は初めてのホテルに大喜び。</p> <p>蚊帳にホテルを放して楽しむ。明日早出の為早々に床に就く。</p> <p>○2日目(6/8)</p> <p>昨夜作っていた、おにぎりを食べ6時に倶楽部を出る</p> <p>大久保より長者原にて待つ旨連絡入り、筋湯温泉経由して50分程度で合流する。</p> <p>車2台で吉部を目指し、榎木孝明美術館前を通過して駐車場へ行くと、既に満杯状態であったが通過して、何時もの通り路上に駐車。大久保車も強引に空きスペースを探しギリギリ駐車。</p> <p>7時15分出発、ゲートを出て、大船、平治岳の標識案内板から少々の登りの登山道を元気よく歩く。黒土でぬかるんでいる。右ルート暮雨の滝だが今回は小窓、大窓ルートの平坦な道をルンルン気分で歩く。このルートは登山誌には紹介されていない為、登山客は少ない。少ないハズである事がやがて思い知らされる。道がぬかるみだし、まるで田圃の中を歩いているようだ。アルミ梯子を慎重に登る。既に林孫は、何のその身軽に登り先に行く。林は息があがっているようだ。平治山頂近くに来るとミヤマキリシマがチラホラ出てくる。それを過ぎた所から、傾斜角度50度近くの田圃道を足を捕られる林妻。孫娘は母の後ろをスイスイと登り上がる。恐れ入ったと林。</p> <p>11時半やっと山頂に到着。大勢の登山客で山頂付近はごったがえしているキリシマは散際間近であるのか全山満開である。</p> <p>記念写真を撮るのも順番待ちの状態だ。林妻、嫁初めてキリシマを見て感動。</p> <p>雨がぱらつき出し、雨具や傘を出すが大振りせず。雲行きが怪しくなってきたので、昼食もそこそこ下山開始。眼下に大戸越に大勢の登山者がうごめいている。そこを目指し、下山専用道の急坂を下る。途中、此処だけしか咲いていない白いミヤマキリシマに出会う。しかし、下山者で渋滞していた為、写真も撮れず。林孫娘は藤原の後ろを滑る事無く大戸越に12時半到着。休む間も無く、坊がつる側に下山。30分程下って右、吉部ルートに入る。そこから雨が降り出し、雨具を着て傘をさし田圃道をひたすら下る。やがて、大船林道に出る。そこに大勢の登山者がたむろしていたので駐車場までどの位掛かるかと聞くと1時間半掛かるとの事。徳永、大久保、河辺は先を急ぐ。残った5人はずぶ濡れになりながら歩いていると2台のマイクロバスが通り過ぎる。中に先ほどたむろしていた若い兄ちゃん途だった。そのバスは町営バスだった。頭に来た。それから皆の足取りは重くなった。</p> <p>駐車場に着いたのが、15時半で先に下った3人が元気よく迎えて呉れた。もう、クタクタだった。林は途中、何度も滑ったのか後ろ前泥んこ姿だった。ここで、大久保と別れる。林はパンツで運転して、小国のきよら温泉で汗を流し、いつもの把木町のだご汁屋にて反省会し、一路福岡に帰る。参加の皆様、お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(記録藤原 添削林)</p>		